

後援会通信 NO. 2

ご挨拶

湘南学園後援会 会長 富田 良男

お陰様をもちまして後援会通信も第二号の発刊と相成りました。活動も手探りながら二年目を迎え、少しずつ軌道に乗り始めました。そんな矢先、2011.3.11 に起きた東日本大震災は私達が未だ経験のしたことのない未曾有の被害をもたらし、これまでの生活は一変してしまいました。まだこの先もさらに厳しい情勢が続いていくものと思われま

す。そんな中だからこそ、我々後援会もいま一度しっかりと足下を見つめ直し、湘南学園の更なる飛躍の為に全会員が気持ちをひとつにして邁進していく所存であります。また、後援会は PTA を卒業された皆様のご入会を心よりお待ちしております。是非ともお力添えをいただける様重ねてお願い申し上げます。

後援会第二回総会のご報告

平成23年4月16日(土)に第2回総会が開催されました。冒頭、高尾理事長、仲本学園長、辻PTA会長よりご挨拶を頂戴し、また来賓として佐藤同窓会会長にもご挨拶を頂戴いたしました。その後、以下議案の審議を行い満場一致にて全ての議案が承認可決されましたので、紙面にてご報告申し上げます。

- ・第1号議案 事業報告及び収支決算報告の承認を求める件
- ・第2号議案 事業計画案及び収支予算案の承認を求める件 以上

詳細に関しては湘南学園ホームページ内「湘南学園後援会」をご覧ください。ば幸いです。(<http://www.shogak.ac.jp>)

小学校新校舎屋上にて撮影



PTA バザー参加の報告

後援会は平成23年10月2日(日)のバザーで、「冷したぬきそば」を出店いたしました。期待していた晴天にはならず、肌寒い一日でしたので、少々苦戦を強いられましたが、会員の皆様のお蔭で約300食販売することが出来ました。収益金も昨年を上回る、35,262円になりました。当日は小学校の新校舎の家庭科室とグラウンドのテントとの2箇所に分れての作業になりましたが、販売は元より調理、運搬と会員の皆様のご協力のお蔭でつつがなく終えることが出来ました。来年度も新たな企画でバザーに参加する予定です。会員の皆様にはご協力の程、よろしくお願いたします。



Kokoro 赴くまに NO. 2 同窓会に参加して 近藤正隆



昨年9月に20年以上前に卒業した人たちの同窓会が横浜であり、参加した。見覚えのある顔もあれば、大きな変わりぶりに分からない顔も、名乗られればすぐに思い出す。なつかしさと共にほろ苦さを感じるのは教員とて同じだ。40歳を超えているので、話は当時と違い、厳しい現実の中で興味深い。もちろん、在学中にあったことも、今思えば楽しい話である。同じ日に富田後援会長(同窓生)も同窓会があり、出席するのだと言っていた。学園の同窓生は仲が良く、集まっては飲み会をやっているとの話を聞くが、学園を卒業したという縁で集まった仲間がワイワイやれるとは、とてもすばらしい。学園は、そんな環境にあるのだと思う。今回の同窓会開催については、平井満先生より話があった。中学校で一緒に担任した同窓生から話があり、参加できるかという連絡であった。もちろん、参加できると答えた。彼らは在学していた時に、楽しいこともあったろうが、嫌なことや不十分な対応もあったろう。私は、その頃のことを思い出して赤面するようなこともある。それでも招待してくれるのだから、できるだけ出席しなければならないと思った。昔のことを語り合いたいとも。

もし、教員をやっていないければ、同窓会に招かれることもない。自分がやってきたことを振り返ることもない。昔のことを語り合うことは楽しかったことばかりでなくとも大事なことである。同窓会の組織がしっかりしている学校は存在基盤がしっかりしているものだ。同窓会が活発な学校ほど、学内に活気があると言えるのではないか。今の学園を支えているのは、在校生であり教職員や保護者である。ただ将来を見据えた時には、学園を同窓会や後援会が支えてやらなければならないことが出てこないとも限らない。学園の使命は、価値ある社会人を育てることであろう。時がたてば、在校生は同窓生となり、教職員と保護者は後援会員になってくれるかもしれない。学園を卒業した同窓生にとって母校は大切なもので、切ろうとしても切れないものだ。しっかりと支えてやろうと思っている人ばかりなのではないか。今年も、いろいろな同窓会が行われることだろう。



* 近藤正隆 先生プロフィール : 湘南学園に35年間勤務。学園長代行、中高校長を務められた。現 後援会役員。

< 23年度 第3回 松ぼっくりフォーラム >

平成23年7月2日、アリーナにて開催された[松ぼっくりフォーラム]では、今回も元 NHK エグゼクティブアナウンサー 鈴木 健二氏による講演が行われました。鈴木氏は、湘南学園時代の懐かしい数々のエピソードから、夢を持って仕事に携わっていくことの大切さを、熱を込めて話されました。後援会は、湘南学園・PTA・同窓会・後援会で作るチーム湘南学園の一員として、会場設営から受付、案内等、懇親会を担当させて頂きました。なお、松ぼっくりフォーラムに要した費用の一部を後援会費より負担させて頂きましたので、ご報告申し上げます。



講演会後の懇談会で鈴木氏を囲んで

< 留学生のホストファミリーをお引き受けしました > 和田 みゆき

月日が流れるのは早いもので、娘が学園小学校を卒業してからまもなく3年となります。その間親子共々に学園への愛校心は変わることなく、中高の学園祭や PTA 合唱サークル「ル・レーヴ」などに、積極的に参加させて頂いております。その愛校心はどこから来るのかと考えてみますと、卒業生や後援会会員に対して、学園はいつでも門戸を開け「居場所」を作っておくことが大きいように思います。

そんな折、今年度の留学生受け入れプログラムのご案内を頂きました。学園中高の試験期間中に後援会会員宅がホストファミリーとなり、留学生を受け入れるというものです。



希望が叶いホストファミリーの1軒となりました我が家ですが、実は学園在校生のご家庭との交流がほとんどない上に、英会話が得意ではありません。しかし国際教育委員会が、留学生ニコラス君に関する十分な資料提供と事前打ち合わせをして下さったことで、彼の登校や前宅・次宅への引継ぎ等、何の不安もなくご協力させて頂くことができたのです。

これは中高と PTA、後援会の連携があるからこそ成立できた、学園ならではの取り組みであるといえるのではないのでしょうか。

さて留学生のニコラス君ですが、ホームステイの期間中は毎日学園生活と日本文化の学習・体験など、たくさんの予定をこなしておりました。我が家で過ごした5日間は学園から離れての活動となりましたので、日本文化に触れてもらえる計画を立てました。鎌倉や小田原散策、東大や秋葉原・新宿歌舞伎町見物など、大変積極的に日本文化を味わってくれました。夕食後は自国オーストラリアの習慣の話や、将来の夢、日本の高校生についての感想など、毎晩遅くまで語ってくれました。

湘南学園での PTA 活動の素晴らしさに魅了されていた私達家族は、再び学園行事に参加できる幸せと喜びに胸を高ぶらせながら、ニコラス君のホストファミリーとして貴重な経験をさせて頂きました。

最後にこの場をお借りしまして、素晴らしい機会を与えて下さった国際教育委員会の荒木先生、後援会副会長の田辺様、そして、ニコラス君の日々の体調や生活・食事の嗜好などを詳細に綴った持ち回り連絡ノートを作成下さり、ホストファミリーを全面的にサポートして下さいました PTA 荒木様に、心よりお礼申し上げます。

そしてこれからも学園のサポーターとして、さらなる発展に寄与してまいりたいと思います。

(2009年度小学校卒業 慶應義塾湘南藤沢中等部3年 和田未来保護者)